測量計算・電子野帳（TS）

A-SurveyAd

Android

エース プロジェクト

2019/01

Ver 3.1.0 にて追加された機能です。

・「現場データ保存」時に、Android のインデックスを更新
・「最終点名の検索」処理を変更
・「杭打ち」測定後の視準点指示で標高も再計算

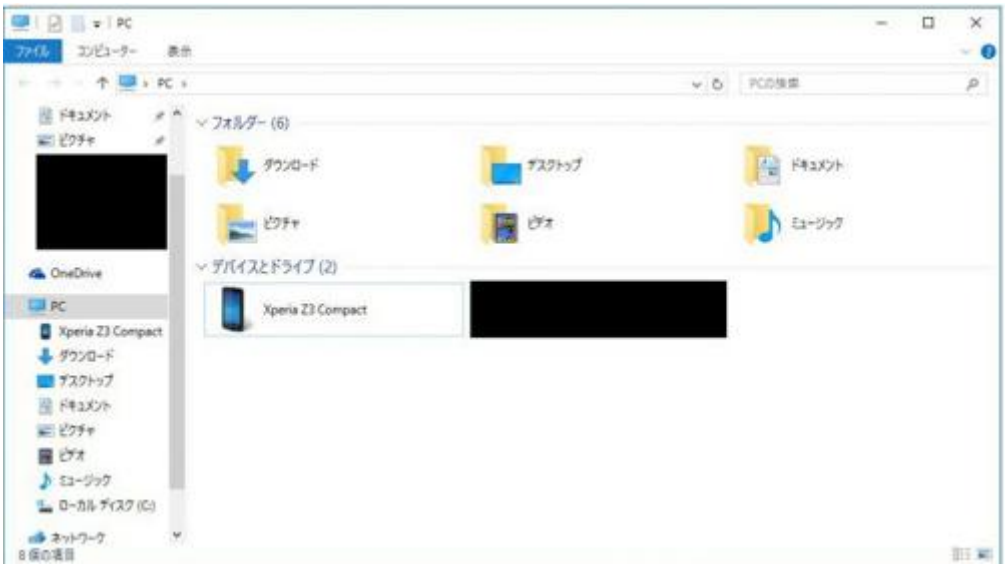
1、「現場データ保存」時に、Android のインデックスを更新

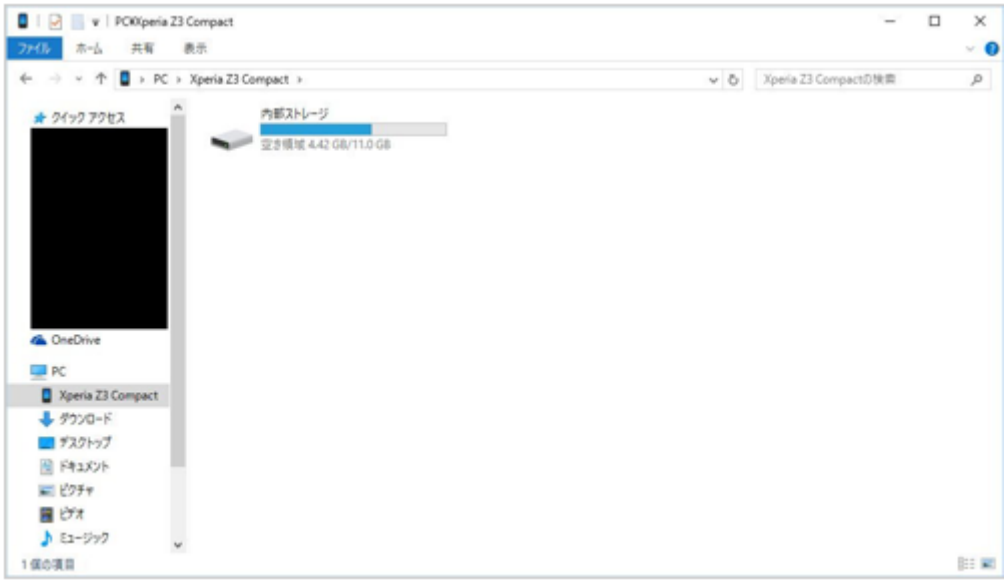
PC とデータのやり取りをする場合に、USB ケーブルを使用して行う方法は
Android 機と PC の両方で、操作できるので危険という事で、OS4.0 以降は
推奨されていませんでした。
USB ケーブルで接続しても、最新のフォルダ、ファイルは PC 側では
見ることができなく、ファイルが無いという状態でした。
Androi 機を、再起動するとほとんどの機種で、表示されるようになりますが
再起動は面倒です。
皆さんは、Wi-Fi や[Dropbox]などを使用して、ファイルのやり取りをしていると思います。

Android6.0 からは、下記の画面のように
USB ケーブルでの接続時のモードを選択できるようになりました。

“ファイルを転送する“を選択。
これで PC から、Android 機のファイルを
表示できますので、コピーが可能になります。

Android 機を PC と USB ケーブルで接続し、充電する事が多いのですが
そのまま、このメニューで切り替えてファイルのやり取りが出来れば楽です。
私は、プログラムのテスト時には常に USB ケーブルで PC と接続してテストしますので
ファイルが最新でないと、困ります。





色々調べてみると、AndroidOS は、ファイルを保存、削除しても
フォルダやファイルのインデックスを更新しないので、最新の状態を
表示できない事が判りました。

話が長くなりましたが、今回、このインデックスを更新する処理を追加しました。
「現場データ保存」を実行後に、この処理を行います。
これで、USB ケーブルで PC と接続した場合にも、最新のフォルダ、ファイルが
表示されるようになりましたので、ファイルのコピーが出来ます。

２、「最終点名の検索」処理を変更

掲示板より、
「最終点名の検索」の結果は、制限が１００個までとなっています。
また、Ver2.20 から、リストの先頭から新しい順に表示されるように
してあります。
ただし、リストが１００個を超えると、それ以降は処理しませんので
新しい点名での検索が飛ばされてしまいます。

そこで、今回は、座標データの先頭から、作成しているのを座標データの後ろから
作成するように変更しました。
これで、リストが１００個を超えても、１００個以内で最新の点名での
結果が表示されます。

３、「杭打ち」測定後の視準点指示で標高も再計算

こちらも、掲示板より、
杭打ちで、測定すると詳細図の左下に座標や標高値が表示されます。
画面を戻したり、他のソフトを起動すると、この詳細図は消えてしまいます。
掲示板で、この詳細図の標高を再度見たいという要望がありました。
「登録」ボタンで登録して記録簿を見れば標高値は確認できます。

A-AdB では、K1 を測定後に、視準点に K2 を指示すると、K1 の測定値で
K2 への誘導値が表示されるようになっています。
つまり、K1 から前後左右に幾ら移動すれば K2 の位置かが判るという事です。

この時、当然、詳細図が表示され、左下の座標も表示されます。
ですが、キー入力をしたという判断で標高値は-9999.000 となっていました。
今回、座標と同様に標高値も表示するように変更しました。

K2 を指示しても観測値は、同じなので座標も標高も同じです。
また、標高を見る目的なら K2 を指示しなくても、再度、K1 を指示でも OK です。